

# 鶴岡市立荘内病院経営強化プラン(案)概要版

## 第1章 鶴岡市立荘内病院経営強化プランの策定

### 1 プラン策定の趣旨

地域医療を取り巻く環境は、医師の偏在化や医療従事者不足、急速な医療需要の変化への対応など今後ますます厳しくなることが見込まれます。そうしたことを背景に国では「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を策定し、それに基づく「公立病院経営強化プラン」の策定を地方公共団体に要請しました。

この経営強化プランはその要請に応え、直面する課題に対応し、持続可能な地域医療提供体制を確保するため策定したものです。

### 2 計画の位置付け及び計画期間

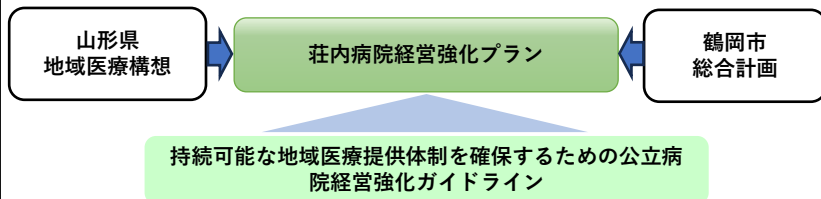
- この計画は、経営強化ガイドラインに基づく「公立病院経営強化プラン」に位置付けます。
- 計画期間は、令和6年度から令和9年度までの4か年とします。

### 3 計画の推進、点検・評価・公表・見直し

- この計画は、毎年度実施計画を策定し、推進します。
- 取組の達成状況について自己点検・評価を行うとともに外部評価委員による評価を行いホームページなどで公表します。
- 必要に応じ経営強化プランの見直しを行います。

#### ○荘内病院経営強化プラン策定について

策定にあたっては、公立病院経営強化ガイドラインに基づき、山形県地域医療構想、鶴岡市総合計画を考慮したものとしています。



### 4 医療を取り巻く情勢と荘内病院の現状・課題

#### (1) 医療を取り巻く情勢

国では、団塊世代が75歳を迎える2025年や団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年の課題として、社会保障費の増大、労働人口の不足の懸念を示しています。都道府県では、第8次医療計画の策定作業の中で各医療機関の対応方針の策定や検証、見直しが求められており、公立病院もその対応が求められています。

#### (2) 荘内病院の現状・課題

##### ①新興感染症への対応

荘内病院は、新型コロナウイルス感染症の対応では、庄内南部地域における「荘内システム」を構築するなど地域の基幹病院としてリーダーシップを発揮しました。

通常の診療体制を維持しながら、今後も新興感染症に適切に対応することが求められています。

##### ②医療従事者の確保

荘内病院の医師数は他との比較でかなり少ない状況にあり、医師をはじめとした看護師、薬剤師、技士等医療従事者の確保が課題となっています。

##### ③医療分野でのデジタル化の推進

荘内病院ではマイナンバーカード使用によるオンライン資格確認システムをはじめ、電子カルテシステムや診療費後払いシステム、診察順番確認システムなどの導入を進めていますが、今後もデジタル技術の積極的な活用が求められています。

##### ④健全な病院経営の維持

現病院が開設されて以降、経常収支の赤字が続き、近年ようやく黒字に転じたところですが、この黒字化も一時的な国県補助金などによるところが大きく、今後も収支改善を進め安定的に黒字化を図ることが求められています。

## 第2章 経営強化ガイドラインに基づく事項

### 1 役割・機能の最適化と連携の強化

#### (1) 地域医療構想等を踏まえた荘内病院の果たすべき役割・機能

地域医療構想は、2025年の医療需要に基づき効率的で質の高い医療提供体制を構築することを目的として都道府県が策定しています。同構想の実現において、庄内構想区域全体として病床機能の最適化を目指す必要があります。

- ・ 荘内病院は、庄内南部地域における基幹病院として総合的医療提供体制のもと、急性期医療、救急医療の中心的役割
- ・ 荘内病院は、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病などへの医療提供や小児専門医療の提供、また地域周産期母子医療センターとして庄内地域の三次周産期医療を担当
- ・ 将来、地域に必要と考えられる診療機能を重点的に強化しながら、病床規模の適性化について検討

○医療機能別病床数の見込み

単位：床

		R5	R7	R9
一般病床	高度急性期	108	108	108
	急性期	403	403	403
	回復期	10	10	10
許可病床数 計		521	521	521

#### (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

「地域包括ケアシステム」の構築の中、中核的な急性期医療機関の役割を果たし、地域医療支援病院として地域の医療機関等との連携強化を図ります。

- ・ 地域の介護施設や在宅療養患者の急変時の受入れ
- ・ 地域の医療機関、介護施設等との相互支援、連携
- ・ 在宅療養に向けた支援
- ・ 医療機器・施設の共同利用や地域の医療従事者の質の向上を図る研修会の実施

#### (3) 機能分化・連携の強化

持続可能な医療提供体制の確保は、限られた医師、看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用し、地域の実情に合わせた連携を推進する必要があります。

- ・ 庄内地域の広大な面積や救急医療への応需、新興感染症への対応などの状況から病床数については当面現状を維持
- ・ 各医療機関が持つ強みを生かしながら相互に補完し、「鶴岡・田川3病院地域包括ケアパス」などの地域連携パスの充実を主軸に、医療、福祉、介護施設等の特徴を生かした連携を推進
- ・ 国立がん研究センター東病院との医療連携協定を生かした「遠隔アシスト手術」などの推進

#### (4) 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

- ・ 高度医療の提供状況の指標 ①手術件数
  - ・ 医療の質に関する指標 ②患者満足度
  - ・ 地域医療への貢献状況の指標 ③紹介率 ④逆紹介率
- ①～④について数値目標を設定

	R5 (見込)	R6	R7	R8	R9
①手術件数 (件)	3,580	3,630	3,680	3,730	3,780
②患者満足度 (%)	93.5	93.6	93.7	93.8	93.9
③紹介率 (%)	89.0	89.5	90.0	90.5	91.0
④逆紹介率 (%)	63.8	64.1	64.4	64.7	65.0

#### (5) 一般会計負担の考え方

不採算医療等の経費について総務省の繰出し基準等の基本的な考え方に沿った負担を基本とします。

#### (6) 住民の理解のための取組

地域の医療機関とも協力し、病院の現状、かかりつけ医の必要性、救急の適正受診等について住民の理解向上のための取組を推進します。

- ・ 出前講座、市民公開講座の開催
- ・ 病院広報紙の発行
- ・ 院内投書箱の設置
- ・ 患者満足度調査の実施

## 2 医師・看護師等の確保と働き方改革

### (1) 医師・看護師等の確保

地域での医師の絶対数不足や地域間・診療科間の偏在は、全国的課題となっており、看護師、薬剤師等も含めた医療従事者の確保を推進します。

- ・ 関連大学への医師派遣協力依頼
- ・ 民間企業を活用した求人
- ・ 自治医科大学卒業の医師、地域卒卒業の医師の確保
- ・ 病院説明会への積極的な参加
- ・ オープンホスピタル、ふれあい看護体験等の実施
- ・ 荘内看護専門学校の移転新築、一学年の定員増

### (2) 臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保

- ・ 医師修学資金貸与制度の運用
- ・ 研修プログラムの充実
- ・ 遠隔アシスト手術など技術習得環境の充実

### (3) 医師の働き方改革への対応

- ・ ワークシェア、タスクシフトによる医師業務の見直し
- ・ 常勤医師の確保

## 3 経営形態の見直し

地域包括ケアシステムの中核として、医療・福祉関係者、医師会等外部組織、行政等との連携が容易であることなどから、現在の地方公営企業法全部適用による経営形態を維持します。

## 4 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

新型コロナウイルス感染症の感染拡大時の経験を通し、第8次山形県保健医療計画に「新興感染症発生・まん延時における医療」が盛り込まれることを踏まえ、有事の際の迅速な対応、機能強化に取り組めます。

- ・ 感染対策チームによる対策強化
- ・ クラスタ発生時の情報共有
- ・ 庄内南部地域での関係機関との連携強化

## 5 施設・設備の最適化

### (1) 施設設備の適正管理と整備費の抑制

荘内病院は、建設後20年が経過し、各種設備更新が必要となっており、適切にかつ計画的な更新を進めます。

- ・ 空調設備の更新、LED化などによる省エネルギー化、脱炭素化
- ・ 計画的な更新による経費負担の平準化

### (2) デジタル化への対応

医療分野でのデジタル化の取組は、患者サービスの向上や業務の効率化などにおいて重要であることから、積極的に推進します。

- ・ 地域医療情報ネットワークシステムの活用
- ・ オンライン診療の推進
- ・ マイナンバーカードの保険証利用促進

## 6 経営の効率化等（経営指標に係る目標数値）

計画期間最終年度の令和9年度において経常収支の黒字化（経常収支比率100%以上）を目指します。

#### ① 収支改善に係るもの

指標	年度	実績 R4	見込 R5	R6	R7	R8	R9
経常収支比率	(%)	104.3	96.0	95.7	97.8	99.9	100.6
医業収支比率	(%)	90.4	88.8	90.9	90.1	92.9	93.3
修正医業収支比率	(%)	88.6	86.9	89.0	88.2	91.0	91.5

#### ② 収入確保に係るもの

指標	年度	実績 R4	見込 R5	R6	R7	R8	R9
入院患者1人1日当たり収益	(円)	56,891	57,486	60,383	60,866	62,753	63,067
外来患者1人1日当たり収益	(円)	15,622	16,874	17,291	17,570	17,854	18,143
病床利用率	(%)	70.0	71.4	71.8	72.4	73.1	73.5

#### ③ 経費削減に係るもの

指標	年度	実績 R4	見込 R5	R6	R7	R8	R9
給与費対修正医業収益比率	(%)	60.6	61.0	58.9	58.5	57.2	57.0
材料費対修正医業収益比率	(%)	22.0	23.2	21.8	21.5	20.8	20.6
経費対修正医業収益比率	(%)	17.8	17.1	18.3	18.2	17.8	17.7

#### ④ 経営の安定性に係るもの

指標	年度	実績 R4	見込 R5	R6	R7	R8	R9
4月1日時点常勤医師数	(人)	77	75	76	77	78	79
4月1日時点常勤看護師数	(人)	456	439	440	441	442	443